【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成20年3月13日(2008.3.13)

【公開番号】特開2005-228741(P2005-228741A)
【公開日】平成17年8月25日(2005.8.25)
【年通号数】公開・登録公報2005-033
【出願番号】特願2005-18549(P2005-18549)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｊ　1/14　(2006.01)
Ｈ０１Ｊ　1/15　(2006.01)
Ｈ０１Ｊ　1/16　(2006.01)
Ｈ０１Ｊ　9/04　(2006.01)
Ｈ０１Ｊ　37/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｊ　1/14　C
Ｈ０１Ｊ　1/15　E
Ｈ０１Ｊ　1/16　D
Ｈ０１Ｊ　9/04　A
Ｈ０１Ｊ　37/06　A
Ｈ０１Ｊ　37/06　B

【手続補正書】
【提出日】平成20年1月24日(2008.1.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
熱陰極であって、
円柱体の一端側が円錐台に形成された結晶質の電子放出部と、
前記円柱体の側面に設けることなく、前記円錐台部分の側面に設けられた炭素皮膜と、
を含む熱陰極。
【請求項２】
前記結晶質の電子放出部が六ホウ化ランタン（ＬａＢ６）単結晶から成り、前記円錐台部分が２０度乃至６０度の範囲の円錐角を有する請求項１記載の熱陰極。
【請求項３】
前記炭素被膜が、熱分解炭素およびダイアモンド様炭素（ＤＬＣ）から成る群から選んだ炭素で形成されている請求項１記載の熱陰極。
【請求項４】
前記円錐台部分の側面が微小凹凸を有し、前記炭素被膜の厚さがその微小凹凸の大きさの少なくとも２倍である請求項１記載の熱陰極。
【請求項５】
前記炭素被膜の厚さが２μｍ乃至２０μｍである請求項４記載の熱陰極。
【請求項６】
電子放出装置であって、
円柱体の一端側が円錐台に形成された結晶質の電子放出部と、前記円柱体の側面に設けることなく、前記円錐台部分の側面に設けられた炭素皮膜とを有する熱陰極と、

前記熱陰極を加熱する電子放出部ヒータと、
前記電子放出部を支持する支持部材と、
を含む電子放出装置。